

工高祭
応援号1

いよいよ明日 開幕



工高タイムス

北海道旭川工業
高等学校新聞局
〒078-8804
北海道旭川市緑が丘
東4条1丁目1-1
発行人(局長)
佐々木 晃成
(電気科3年)

ポスター2年連続 飯塚君

目立つ派手なデザイン

準備も佳境

第49回工高祭が7月5〜6日に開催される。開幕を明日に控えて、準備も佳境に入ってきた。新聞局では準備から閉祭式の様子まで取材し、「工高祭応援号」として工高タイムスを発行する。

工高祭はコロナウイルス感染防止対策のため令和2年度は中止になり、令和3年度は一般公開と模擬店が行なわれ

「工高コン」として実施された。令和4、5年度はコロナウイルス感染防止に努めながら行なわれたが、今年は



第49回 工高祭
令和6年
7月5日(金) 前夜祭・花火(生徒のみ)
7月6日(土) 一般公開 9:30~14:00
※駐車スペースには限りがあります
会場 北海道旭川工業高等学校
旭川市緑が丘東4条1丁目1-1

制限もなくなり、5年前の形に戻っての実施となる。

制作にアイパッド アイビスペイント

工高祭ポスターの原画が6月7日に発表され、グループフォームを使った生徒の投票

巨大オブジェ ドラゴンボールの神龍 圧倒的な存在感を持つ

巨大オブジェの製作が6月25日から始まった。作っているのはドラゴンボールの「神龍(しえんろん)」で、1年生33人、2年生2人、3年生5人の計40人が担当している。神龍をデザインした広田美愛さん(建3)は「今年は辰

で飯塚瑞木君(電3)の作品が選ばれた。飯塚君は昨年も選ばれている。原画はアイパッドでアイビスペイントを使って制作した。

飯塚君は「去年もポスターを作成したので今回も応募した。今年も自分の作品が選ば

年なので龍にした。ただの龍だとおもしろくないのでドラゴンボールの神龍にした。製作工程は、頭を竹で作って番線で結び、体はダンボールで正三角形をつなげて正六角形を作った。やったことのない作り方なので試作してから、顔の曲線がうまくできるように工夫した。苦労したのはダンボールだけで作るよりも作業工程が多く時間が足りないこと」と話した。

生徒会担当者の山本良太郎(建2)は「軽量で強度の高い素材を選び、作品の重量を



生徒玄関の屋上から路上へと伸びる巨大オブジェドラゴンボールをくわえた「神龍」のイメージ図



骨組みを製作する鈴木太陽君(機3、中央)

れて良かった。旭工生以外の一般の人たちが見てもすぐに分かるように派手なデザインにした。作成は休み時間や自宅での空き時間に描いた。趣味でも描いているので、楽しく描けた。良かったところはすべて」と語った。

抑えつつ強度を確保した。部分ごとにモジュール化して組み立てや運搬を容易にする工夫をした」と話し、苦労した点は「作り始めてから想定した大きさと違ふことが分かり、作成中に変更を余儀なくされた。設計段階に戻ってやり直した点」と語った。お勧めポイントには製作できる最大のサイズで、神龍が圧倒的な存在感を持ち、見る人に強い印象を与えられるところだ。



工具箱

入学して初めての工高祭について私のクラスの取り組みを紹介する▼クラスステージはダンスでクラスのほぼ全員が踊る。曲は「ソーラン節」と「第六感」だ。ソーラン節は5月中旬から踊ることが決まっておき、先週から練習が始まった。5列で後ろに行くほど広がっていく配置だ。担任の和田亮一先生にセンターで踊ってもらおう。練習初日はみんな疲れた様子で集中できない感じだった。しかし和田先生が前向きに「よし、やろう」「皆で吹っ切れよう」と言うと、気持ちを切り替えて頑張った▼クラス企画は「シルエットクイズ」をする。正解数に応じて景品が豪華になる。クイズに必要な材料の買い出しで7人で旭神の100均へ行った。電器店では千円する懐中電灯が385円で購入できた。性能が良く、影がくっきりとできるので満足している。シルエットクイズでは和田先生と副担任の名波奈々女先生のフェルト人形を作る。男子の美術部員が1人でデザインし手作りしている。すごくかわいいのでぜひ見てほしい▼クラスTシャツは黄緑色を注文したが、蛍光イエローのような色でクラスみんなが着るとすごくまぶしく感じる。とても目立つ電気科にぴったりだ。迷子にはならないだろう▼工高祭の科展示はイチ押しだ。巨大オブジェの「神龍」は願いを叶えてくれるというので必ず見に行く。すべてを回り取材しながら2日間を楽しみたい。(電1稲留)